

| | |
|----------------|-------------|
| タイトル： 謙虚な姿勢 | 事務局使用欄： 302 |
| 学校名： 酒田市立第三中学校 | 氏名： 仮屋園 由衣 |

私は、医療法人健友会本間病院に職場体験に行きました。そこで「働くこと」についてたくさん学ぶを得ることができました。私は今まで仕事をすることはお金を稼ぐことだったり責任が重くのみかたり、精神的に辛いことばかりだと思って、「楽しい」といえるようなものではないと考えていました。しかし、このように私が考えている偏見が覆されるような大切なことがあるということに気がつくことができました。それは「利用者さん」「患者さん」の存在です。私は体験1日目に介護の事業所に行き、直接お話し合う時間があり、一緒に短冊に願い事を書く作業を行いました。そこで私はある人の女性に「願いたいことありますか?」と訪ねました。すると、「恋人がほしいと書いてほしい」と答えてくれました。私はその言葉を聞いたときにどういうことなのだろうと少し疑問に思いましたが「その方は私に対して真すぐに気持ちや伝えたいことを話します。この方は若い気持ちを忘れないで初心のままに人生を楽しんでいきたいという願いをもった方なのだ」と考えました。この事を介護士の方に伝えたら「私たちは利用者さんの目標に対してサポートすることが楽しいからね」と言っていました。そこで私は「考えました。大変な仕事は多いと分かっていても利用者さんに寄り添いサポートをしていく中で、利用者さんの笑顔や喜ぶ姿を見ると「やってよかった」という達成感ややりがいがある、大変なこと以上に感じられるのだな」と思いました。私は介護士さんが言った言葉にはそんな意味が込められていたのだと気づきました。体験2日目には、お医者さんへの質問をすることと看護部の体験を行いました。まず医者の方からは、やはり仕事の量が大きいときと少ないときでよめないといった大変さはあるけれど、医師としての責任からどのような状態の患者さんでも全力で治療を行い、その結果、元気になる姿を近くでみられることの喜びややりがいがあるのだとお話をしてくださいました。また

看護部の体験では、実際に車いすやストレッチャーに乗り患者さんからの視線を感じたり、清潔还是不潔を考えた手袋のつけ方

を体験させてもらいました。そこで私は車いすに乗っていると主に看護師さんがこしを下げて視線を合わせて話してくたのでとても安心感が感じられました。

私は2つのお医者さんからの言葉と看護部の体験を比べてみると共通点があることに気がまりました。

それは「患者さんのために」という部分です。不安にさせないことを第一に考えて仕事を行っているのだと考えました。自分の思い通りにならないこともたくさんあるのに「自分より患者さん」という考え方を心がけていることができていたと思いました。

私は2自間の本間病院での職場体験を通して今の私の考えていた「働くこと」とは大変・辛いというネガティブなイメージが強かったのですが、お話や実際に体験をしてもらう大変なこと・辛いことは多々いけれど、その分患者さんからの感謝の気持ちだったり、元気になった姿や明るい笑顔をみることができるといったやりがいがいっぱい以上にあるのだと気がかえりました。私は、仕事や働くことはやらなければいけないということではなくて人のためにすることの意味があるのだと考えました。

そして最後に私は将来医療関係の仕事に就きたいとさらに強く思いました。今回の体験を無駄にせず、人のためには最後の最後までねばり強く頑張れるそんな大人になりたいです。